

# コラムニスト ブレイテ



©Breite  
1965年からのメ  
ンタキ

## ■読書する意味

ブレイテイ 手軽に海外の体験ができる本と捉えられているかもしれない。

川上 私も時々、本を読む意味って何だろうと感じます。「黄色い家」は、犯罪に手を染める花のように自分も転落したかもしれないといった感想が多いんです。確かに、読書を通して厳しい状況に置かれた人への想像はできる。

でも、その先に何かがあるのかを考えてしまう。

ブレイテイ 私はその点、文学の人ではなく、いつまでたっても労働者階級側の「ストリートの人」だから。活動家ではないですけど、目に見える人や社会の変化を求めて、書く気持ちが強いかもしれない。

川上 ノンフィクションとフィクションの違いもあるでしょうね。私も「ストリート」

けていられるのは僥倖だと思えます。今作は連載だったのですが、若い女性の読者から、わずかなお金の中から新聞を購読してくれたというメッセージを頂きました。忘れることができませぬ。

## ■A-1の時代

川上 教育も大きな問題です。子どもに、社会の一員として何を教えたいですか。90年代からの「失われた30年」と呼ばれる状況があるからか、学歴や文化的経験など、少しでも我が子に「不利な条

件」を与えたくないと思ってしまう親がとても多い。

ブレイテイ 学歴といっても、それは今までの常識じゃないですか。AI(人工知能)が出てきて、知的労働者の仕事が奪われるとも言われますよね。コロナ禍もあったし、これまでの常識で子どもを縛ってもそれが成功につながる保証はないと思います。



の母とアイルランド人の父がいる「ぼく」は、イギリスで「元底辺中学校」に通い始める。友達とぶつかり合いながら成長する日々を描く。新潮文庫。

川上 人との接し方も、変化しているのでしょうか。競争社会は激しいままで、「弱さ」はもろろんのこと、男性的な「強さ」だけでも受け入れられない。自分はこんなに傷ついていますと語る「弱さ」を訴える強さが必要なの時代です。単純に弱くも、強くも

いらぬ、社会の中でどう振舞うか、

や大人た  
もが慣ら  
分でもつ  
よつにな  
川上

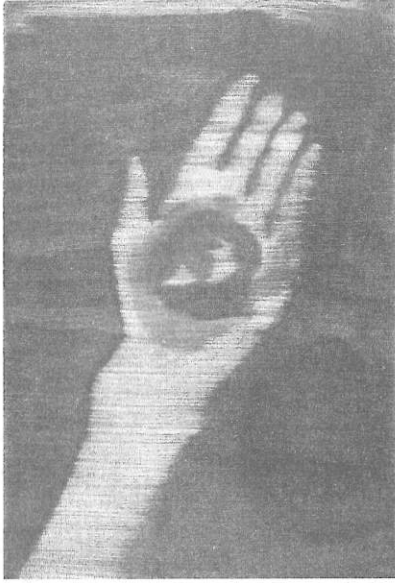
# 文化

## 「異端」の作家に光 展覧会

西洋的な美術史観や、近代の合理的な尺度からこぼれ落ちた日本の作家や作品を捉え直す展覧会が、川崎市岡本太郎美術館で開かれている。「芸術は呪術」と唱えた岡本太郎の視座に通じる試みでもある。

「異端、異質とされてきた作家に光を当て、同時に評価の定まった作家も従来とは違う見え方を示したい」。土方明司館長は狙いを語る。宗教学者で京都大名誉教授の鎌田東一さんが監修。江戸時代の円空から現代の若手作家まで約50人

## 西洋的価値観を超越



中国孔「無題」2014年 個人蔵 ©Koji Nakazono, Nakazono Family Courtesy of Tomio Koyama Gallery

の約125点を「霊性の尺度」によって選んだ。

展示は神懸かりによって生まれた作品や、常人では感じえない「何か」を幻視する作家の作品など、人間を超えた「何か」と表現との関係性を軸に展開する。身近な人の死にインスピレーションを得た現代美術家の花沢忍さんは、鮮やかな色彩で天国のように幻想的

な世界を描く。幻視を表現に昇華させる草間弥生さんは水玉や網目模様を無限に増幅させ、横尾忠則さんは異次元と現世を重ね合わせる。作家は時代も背景も知名度もまちまち。だが並んでいて違和感がないのは企画の狙い通りなのだろう。

18歳で渡仏し10年以上をパリで過ごした岡本は、フランスで民族学に傾倒した。帰国後は考古学の対象でしかなかった縄文土器に力強い美を見いだし、東北から沖縄まで各地取材した。注目したのは、西洋美

術の価値基準を超えた日本の美。本展のテーマと重なる。土方館長は「異端のよう」に扱われてきたが、万物にやおよぶの神を見いだす日本の感性を軸にする」と、太郎の作品は全く浮いていない」と話す。

「頭神の夢」幻視の表現者―村山槐多、関根正二から現代まで」展は6月25日まで。会期中展示替えあり。月曜休館。足利市立美術館(栃木県足利市)や久留米市美術館(福岡県久留米市)など4館に巡回する。(文化部 竹内和佳子)